

2年目の研修を終えて

期待と不安の中、始まった2年間の初期研修はあっという間に終わり、専攻医として新たなスタートを切ってはや2ヶ月が経ちます。初期研修を振り返ると、2年前のこの時期はまだ臨床に慣れず、辛い時期だったと記憶しています。そのような中、指導医の先生はじめ、スタッフの皆さんには温かくご指導いただき、少しずつ知識やできることが増えていくことに喜びを感じていました。

2年目になると指導医の先生から任せていただける仕事が増え、スタッフの皆さんから頼られることも多くなりました。これは大きなやりがいでしたが、同時に医師としての自覚と責任を再認識するきっかけにもなりました。この頃から3年目以降の道を意識して、外部施設で研修を行うことが多々ありましたが、けんみん病院に帰ると、スタッフの皆さんが温かく迎えてくれたことは印象に残っています。

今後は、この2年間の研修で身に付けた基礎を大切に、初心を忘れることなく、心臓血管外科の道を邁進していきたいと思います。そして、再び、けんみん病院で働かせていただく機会があれば、育ててくれた幡多の患者さん、先生、スタッフの皆さんに恩返しができるよう日々精進してまいります。2年間、本当にありがとうございました。

【初期臨床研修医 江戸 直樹】



令和2年度より2年間、当院で初期臨床研修医としてお世話になりました岸 大樹です。この2年間で多くことを経験し、成長させていただきました。ありがとうございました。

この限られたスペースではその1つ1つを振り返ることは不可能なので、適度に割愛したいと思います。まず入職したばかりのころは文字通り右も左もわからない状況で、病院スタッフや患者さん、その家族、果ては廊下ですれ違う通りすがりの方にまで助けられたことが何度もありました。初期研修を終えたからと言って左右はわかるようにはなりましたが、まだまだ分からないことだらけです。当院で得たこと、初心を忘れることなくこれからも診療にあたっていきたいと思っています。

今年度からは高知大学所属の整形外科医となりました。また当院で働くこともあるかと思っています。右も左もわからなそうなふらふらしている人を見かけたら、それはたぶん僕です。皆様、また助けてあげてください(笑)

2年間大変お世話になりました。ありがとうございました。

【初期臨床研修医 岸 大樹】



2年目の研修を終えて

令和2年4月から令和4年3月までの2年間、初期臨床研修を行いました。期待と不安を胸に始まった研修でしたが、あっという間の2年間でした。

幡多けんみん病院は幡多地域の中核病院であり、周辺地域から多くの患者が受診しています。内科系の診療科から研修がスタートし、肺炎や尿路感染症のようなコモンな疾患や時に稀な疾患を診療しながら、外来診療や病棟診察の基本を学びました。また地域の救急診療の中心となる病院でもあり、夜間休日の当直や救急診療部では救急搬送患者の初期対応や初期治療を学びました。幡多けんみん病院の研修は時間に余裕のある日もあり、文献や論文から新たな知見を得たり、手技の予習復習をする時間もあり、とてもバランスの取れた研修ができました。

4月からは高知大学麻酔科に入局します。いずれは幡多けんみん病院にも麻酔科として勤務することもあると思いますが、その際は自身をご指導いただいたように後進の育成をし、指導医としてまた一医師として病院に恩を返していきたいと思います。最後になりましたが、研修にご協力いただいた患者様や地域の皆様、医師やコメディカルスタッフの方々に感謝申し上げます。

【初期臨床研修医 田口 拓磨】

